

総務厚生常任委員会

町職員の特殊勤務手当に関する改正

飯南病院の医師不足を補うために、非常勤医師による日直や宿直業務の応援を受けています。これらの医師をサポートするために、待機命令を行ったとき、常勤医師や臨床検査技師、放射線技師の休日・夜間待機に対して待機手当を支給するものです。

出産一時金に関する経過措置

21年10月から23年3月までの間、健保や国保の出産一時金は、さらに4万円引き上げられ、42万円になります。ただし産科医療保障制度に加入している病院に限られ、それ以外の場合は、39万円となります。これについては、23年以降継続されないときは、町単独事業として継続すべきという意見がありました。



定住促進空き家住宅の設置

本町への定住を促すために、赤来、頓原の両地区に3軒づつ空き家を改修し、賃貸するものです。家賃は月額2万円の定額で、期間は10年間です。定住を促進する上で、入居者とこれを受け入れる集落との間で十分な理解と協力が必要であり、入居者には地域の活動に積極的に参加することを促し、集落には新たな担い手として積極的な受け入れを促す必要があります。



赤来地区定住促進空き家住宅

移住体験住宅の設置

移住希望者の短期田舎暮らし体験を行うため、旧国土交通省所長住宅、旧来島診療所医師住宅を改修し賃貸するものです。期間は1週間から農業研修期間の2年間までとし、家賃は月額1万5千円です。



教育経済常任委員会

特用林産物生産振興事業

飯南町が、琴引フォレストパークスキー場の駐車場に「しいたけ菌床栽培施設」を建設し、飯石森林組合が経営するというものですが、審議を通じ疑問点が続出しました。その結果、厳しい『審査意見』を付した上で、承認しました。

<審査意見>

特用林産物生産振興事業は、飯南町が事業主体となり、椎茸生産施設を建設し、飯石森林組合が運営し、生産活動を行うものである。この事業のねらいは、本町の雇用拡大を図るため施設整備を行うとされているが、その効果は現在の雇用3名の継続と2名の純増にとどまり、投資効果に対する評価に疑問をもつものである。

現行の生産体制の延長では、菌床の供給などは他町からであり、本町の林業振興への波及効果の期待が薄いといわざるを得ない。さらに、審査を通して運営の主体である飯石森林組合の考え方も十分理解できる状況に至らなかった。

そうした点から、執行にあたって町は飯石森林組合に対し、懸念払拭とともに本町にとっての投資効果が得られる方策を強く求められたい。

本町の投資金額のうち、森林組合が1,500万円負担することになっているが、極力短期間に町への納付を求められたい。

この予算の審査にあたっては付帯決議も辞さない状況下において長時間審査を行った。この意見の重みを真摯に受け止められ執行に当たられたい。飯南町議会として強く求めるものである。

割増商品券発行

「とくとく商品券」の第2弾を11月下旬発行するにあたり、高齢者や独居世帯への配慮を求めました。

- ・500円券の創設
- ・商品券販売所の増設
- ・医療機関や公的機関でも利用できるようにすること



合併浄化槽施設の整備

当初計画は15基でしたが、今回10基追加され、今年度25基の設置となります。この内2基は経年劣化によるものですが、設置後10年以上経過しているため、補助対象工事として町が改修します。ただし10年未満の改修は補助対象とならないことから、万全な施工管理をするよう執行部に求めました。

岡山県の北東端にあり、林業に夢を描き上質な田舎づくりを目指している西粟倉村を視察しました。

「約50年前に木を植えた人々の想いを大切に、百年の森林(もり)に育て上げていく。そのためにあと50年、村ぐるみで挑戦を続けよう」と決意したと、『百年の森林構想』を道上正寿村長が熱く語っていただきました。

人口1,600人余・面積57平方キロ、ともに飯南町の約4分の1ですが、村を訪れる交流人口は実に年間30万人にも及びます。

「主体的に考える職員を育て、村の意思の明確化に努めたが、我々が仕掛けたことがようやく実りかけてきた」と村長。大変収穫の多い視察でした。



道の駅「あわくらんど」

